

第5回孤独・孤立対策の在り方に関する有識者会議資料（メモ）

神戸女子大学 伊藤美奈子

情報提供①

資料2にもありましたが、子どもたちの自殺については、学校臨床に関わるものとしても、解決すべき重大な課題であると認識しています。いじめが背景にある場合は、調査委員会が立ち上がるなど、世間的にも注目されがちですが、実際には、いじめ以外の要因（学業や家庭のこと、精神疾患など）が絡むケースの方が多く、孤独・孤立の観点から分析することは非常に重要であると考えます。

とくに、中高生女子の自殺者が増えている現状につきましては、コロナ禍以降、注目されています。心理臨床の現場から、女子に特徴的な気になる点として挙げられるのが、次の2点です。まず1点は、女子の方がうつ病等の疾患を抱えるものが多いこと、そして2点目は、自傷行為（リストカットより、最近はオーバードーズが激増）も女子に多いという点です（うつ病が自殺の原因になるケースは少なくありませんし、自傷経験のある者は、ない者より、自殺既遂率も高くなると言われています）。そのため、自傷行為への対策が、自殺予防にも効果を持つのではないかと感じています。

他方、10代の子どもたちを対象とするという来年度の調査結果をもとに、具体的な施策を考えられることには大きな意味があると思います。

情報提供②

勤務校である神戸女子大学は、2025年度「地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル調査研究」に採択されました。大学で不適応を起こし、休学や中退する学生が少くない現状から、居場所つくりを実施し、日常生活の中で予防的に支援を考えることを目的に、＜孤独・孤立を防止する、学生による学生のためのキャンパスカフェ＞というテーマで活動してきました。内容としては、おしゃべり・もの作り・軽い運動等で週に1回程度、学生が主体として運営しています。

この取り組みから、専門家が行う心理支援も必要ですが、それと同時に、深刻化する前に早期にキャッチし、（ひきこもる前に）キャンパスの中で対応することの必要性と有効性も実感できました。また、対等な学生同士のサポートの輪が徐々に広がることで、大学全体に「助けて」が言える空気が醸成され、それが社会との絆につながる可能性を生むことも確認できました。

こうした取り組みを、他大学や公的な機関にも広げることは意味がありますが、その反面で、経費の問題（とくに人件費）、学内の連携の問題（支援の窓口とのつながり）などが課題です。